

公表

事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	あさがおクラブ			
○保護者評価実施期間	2026年6月15日		～	2026年7月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31人	(回答者数)	22人
○従業者評価実施期間	2026年6月15日		～	2026年7月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数)	7人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 9月 7日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こども達が自由にやりたいことやしてみたいことが出来る。	こども達の思いを聞き取り、興味や好奇心を広げられるように活動に反映している。また活動内容によっては職員がマンツーマンで対応を行い集団の中でも個別対応が出来るように工夫している。	こども達のやる気や興味を広げながら「自分でする」「自分で出来る」を増やせる様にサポートしていく。
2	様々なケース（ニーズ）に対して、柔軟に対応と受け入れなどを行っている。	保護者のお仕事等による個別の受け入れ送り時間等の対応。学校やご家庭の状況による柔軟な対応。様々なケースに対してこどもや保護者の状況に合わせた支援。	こどもや保護者の悩みや思いを聞き取り、法人の理念である「共に学び」「共に生きる」を実践出来るようにしていく。
3	職員数を基準より多く配置している。	職員数が多い事により、集団や個別活動をより細分化して行うことが出来、またこどもも要望や状況にも柔軟に対応出来るようにしている。必要に応じてマンツーマン対応を実施している。	職員のスキルアップの為の研修や自己啓発活動を促進して、個々の能力やチームワークを上げて事業所全体の支援力を高められるようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	きめ細かな対応（確認不足）。	事業所に忘れ物があるなど確認事項がしっかりと出来ていなかったり連絡事項の確認や送迎時間の間違い等、基本的な確認が不十分な点が見られる。職員数は多くいるがその反面、誰がしているだろうと言った「～だろう支援」や他の人がしていると言ったことで自分がすると言った意識が弱い面がある。	職員一人一人が気づきを増やし見落としを減らしていく事や自分がすると言った意識を高められるように、職員間のコミュニケーションの強化や振り返り、PDCAをしっかりと行っていく必要がある。
2	こどもがこども同士で過ごすことより大人（職員）と過ごすことを望んでしまう事がある。	職員が多くいることでマンツーマン対応がある程度出来ることで、その結果職員と過ごすことが増えまた過ごすことを望んだり、職員にやってもらおうとする傾向が見られ、自分でする力やお友達同士の関わりに課題が残る。	個別対応も大切に行いながら周り（こども）を誘い巻き込んだ形での活動へ繋げていけるようにサポートしていく。また自分で出来る事は自分でするように再度確認を行い、新たに出来る事が増やせる様に工夫を行っていく。
3	地域の社会資源、特に児童館や児童クラブとの交流の場面が無いもしくは少ない。	地域の医療、保育、教育、児童館等とのやりとりや連携する機会が少なく関係性を築けていないのが課題とである。例えば、看護士配置がなかったり、保育園等との送迎じでの挨拶等は行いが、児童に対して支援について話す機会が無くまた持ていないのが実態である。	相手の方から声をかけてもらうことが無いので自分たちから行動を起こしていくようにしていく。また研修の場やネットワーク機関に参加し関係を築くきっかけづくりを行っていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果（放課後等デイサービス）

事業所名		公表日					
あさがおクラブ		2026年10月4日					
		利用児童数				31人	回収数 22人
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	18	1		3		ワンフロアで広さは確保されていますが、個別のスペースや寝ころんだりするなどリラックス出来るスペースが限られているので区分け等、検討していきます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	16	1		5		事業所の配置基準より多い人員配置は行っております。午前3名午後からは6名配置しています。長期休み期間は午前から職員数を増やしています。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	13	6		3		ワンフロアの為シンプルな配置となっています。建物の構造上バリアフリー化は出来ておりません。情報伝達等は視覚支援を行う等して工夫しています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	17	1		4		児童帰宅後、毎日清掃を行っています。おもちゃの消毒も適時行っております。こども達の活動に合わせて活動場所分けなどの対応を行っています。
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	17	4		1		職員一人一人のスキルアップを行うと共に必要に応じてマンツーマン対応や個々に合わせた支援・活動を行っています。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	16	1		5		こども達の状況に合わせて支援内容は柔軟に対応するようにしています。状況によってはプログラム外のことを行うこともあります。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	20	1		1		こどもの日々の過ごしの中で課題や懸念等を通してニーズや意見を聞き取り計画に反映するようにしております。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	19			3		支援計画をご家族にも分かりやすい内容で作成を行い、また丁寧な説明を行うように改善していきます。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	20	1		1		子ども達の状況に合わせた対応を行っているため、計画から逸れる場合もあります。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18	2		2		子ども達が自分でやりたいことを選ぶこともあり、その際は同じ活動が続くこともあります。活動内容を充実させ選択肢の幅を広げられるように工夫していきます。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	8	1	2	11		児童クラブや児童館と一緒に活動や交流をしていません。地域のこども達とは近所の公園で出会って一緒に遊ぶ場面もあります。
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	20			2		見学時や利用契約時に説明するようにしております。契約後は改めて説明が無いのが実態です。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	18	3		1		対面での説明が十分に出来ていないので改善を検討していきます。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	19	1		2		家族が参加出来る研修等は実施出来ておりません。また家族と話せる場を設定しておりますが参加者が少ない状況であります。電話等のお問い合わせで情報提供を行っています。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	20	1		1		実施記録への記載や送迎時や電話などで伝えるようにしております。十分に伝えきれていないこともあるかと思いますので積極的なコミュニケーション進めて行きます。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	20			2		個人懇談（年2回）を実施しております。またご相談等は随時電話等でも受け付けておりますので、ご連絡いただければ幸いです。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	21			1		こどもや保護者の気持ちに寄り添うように日々心掛けておりますが不十分な点等がありましたら遠慮せず言って下さい。
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	15	4		3		野外交流会や交流の場などで保護者やきょうだいが参加出来る機会を設けておりますがより多くの保護者やきょうだいが参加出来るように内容の充実や改善を図っていきます。
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	20	1		1		こどもとは日々の活動の中で色々な話をしながら思いを聞き出すようにしております。相談や申し入れの場面としては、実施記録の保護者記入欄や電話、送迎時などいつでも受け付けております。

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	21			1	子どもの場合は必要に応じて絵カードや紙に書くなどの視覚支援を行っております。保護者へは、実施記録への記載や電話やショートメール等でお伝えしております。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	21			1	公式LINEは毎月、クラブ便り・花の会ニュースは数カ月ごとに情報発信をしております。自己評価の結果はHPでの掲載と配布をさせていただいています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	19			3	個人情報のファイル等は事務所で鍵のかかる書庫に保管しております。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	14	2		6	各種マニュアルは作成して保管していますが、皆様への周知や見ていただき機会がほとんどない状況です。訓練は年2～3回実施しクラブ便りを通してお知らせしております。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	9	1	1	11	年2～3回の為、子ども全員が訓練に参加出来ている状況ではありません。また、訓練実施の情報を周知出来ていないのでしっかりと情報提供していくようにしていきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	18	1		3	安全計画の策定や緊急時のマニュアルを作成しているが全職員への周知徹底が十分でない場合もあるので再度周知徹底を行っていきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17	1		4	速やかに保護者へ連絡を行い必要に応じて通院を行っております。保護者をご不安にならないよう丁寧な説明を行うように努めてまいります。また行政の方にも報告を行っています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	21			1	子どもが安心感をもてるようにこどもの気持ちをしっかりと受け止め温かく見守りながら活動の見直しや他者との関りをサポートしていきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	19	1		2	子どもが行くのが楽しみと思ってもらえるように活動内容や支援の充実を図っていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	21			1	子ども達の成長をサポート出来るように日々丁寧に取り組んでまいります。また、子どもや保護者と一緒に歩んでまいります。

公表

事業所における自己評価結果（放課後等デイサービス）

事業所名		公表日				
あさがおクラブ		2026年10月4日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		ワンフロアで十分な広さがある。また、別室やパーテーション活用して分散して活動が出来るように工夫している。	ワンフロアで広いが異年齢の児童が多く、走り回ったりすると衝突する可能性があり気を付ける必要がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		配置基準よりも多い職員数を配置している。こどもの状況に合わせてマンツーマン対応も行っている。	職員数は多くいる為、マンツーマン対応が増えている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	階段の昇り降りや駐車場までの移動の際は、職員と一緒に付いて対応している。必要に応じて視覚支援も行っている。	事業所が建物の2階にあり、エレベーターが無い。賃貸の為、自前でのバリアフリー化が難しい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日、清掃・消毒・片付けを行い快適に過ごせるような環境設定を心がけている。またこどもの状況に合わせて別室等を活用している。	建物の構造上、トイレスペースが狭くまた男女別々に分ける事が出来ず、共有で使っている。おもちゃの整理整頓が課題である。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		こども達の状況に合わせて別室や事務所スペースを活用するようにしている。	複数の個別スペースの確保が難しい。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		○	職員同士で話をする事は出来ているが目標設定が明確でなく振り返りも十分に出来ていないのが現状である。	職員からも十分に出来ていないとアンケートにて返答があり、早急な改善と具体的な計画が必要である。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価アンケートを集約してHPで公表、定例会で保護者への説明を行っている。	こちらからの一方通行的な報告になってしまい個別に保護者に対しての返答や周知が課題である。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		○	会議や打ち合わせ時、日々の活動を通してその都度意見を聞くようにしている。	職員との面談が十分に実施出来ていないので改善していく。また特に午後からの職員との意見交換の場が足りていない。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		第3者委員より事業所視察や、会議等で意見を頂いている。	第3者委員との評価機会はあるが、外部調査機関との評価は毎年は行われていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		定期的に会議や研修を実施している。午後からの非常勤職員へも会議や研修の案内を行っている。	外部研修への参加が少ないので、参加を促していく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		法人のHP等で公表している。	支援プログラムへの認知度が低く知らない保護者も多くおられる。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		活動の様子、保護者の声などから職員間で情報共有、アセスメントを行い計画作成を行っている。	計画の作成に時間がかかっている。アセスメント、客観的な分析力を向上出来るように、研修やスキルアップを行っていく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		○	ケース会議を行い様々な意見を交わしながら共通理解を高めるようにしている。また日々情報を共有するようにしている。	管理責任者の意向が中心で特に午後から来られる非常勤の職員との共通理解が足りていないので話をする場を設定していく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		こどもの声（ニーズ）を取り入れて柔軟に活動している。	日々の活動や出来事に追われて、計画性が弱い所がある。職員全体での事前の計画の共有が不十分である。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		調査票を保護者に記入いただき、また聞き取りを行う。日々の様子（支援）等を支援記録に記入し確認を行っている。	行動の状況を把握するために職員間で意見交換をし客観的な状況を行うようにしているが、個人によって見解のずれが生じる。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		こどもの様子、保護者の声、関係機関との情報共有を元に計画作成を行うようにしている。こどものニーズに向き合い、個々のこどもの特性やペースに合わせて設定している。	継続的な支援内容の設定が多く、もう少し細分化した支援内容の設定が必要である。また家族支援の充実や移行、地域支援についての支援内容の設定に課題が残る。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		こどもに合わせて職員間で相談して決めている。長期休み期間は計画を立て日頃できない活動を実施するようにしている。	保護者や非常勤職員の声が十分に反映されていないのが課題である。日々のコミュニケーションの中で聞き出し反映していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		様々な経験が出来るように設定し、新しいことへも挑戦出来るようにしている。またこどもの調子に合わせて柔軟に対応している。	こどもの希望により活動が固定になってしまっていることがある。希望を反映しながらこどもの強みを伸ばせるようにしていく。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		ケース会議を行い、職員間で相談しながら計画を作成し共通認識を持って、支援を行っている。	個々の状況によって個別と集団の活動に偏りがあるケースがあり全員が均等に両方の活動を行うのが難しい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝の打ち合わせで行ってる。午後からの非常勤職員に対しては、情報を伝えるようにしている。	午後からの非常勤職員より児童が早く来るケースもあり確認漏れや伝え漏れがあることがあるので改善を行っていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援や送迎の終了後に、必要に応じて振り返りを行い情報の共有を行うようにしている。	緊急対応や時間をかけて検証するケースもあり、その日だけで時間が足りない場合もあり共有しきれていないこともある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の出来事を丁寧に記録するようにしてデータとペーパーで残している。振り返りの資料として活用している。	客観的な要素と主観的な要素の両面での記録をとることで本人ことをより深く考えらるようになっている。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年に1度、懇談を実施してモニタリングを行い、必要に応じて計画の変更を行っている	本人の成長に合わせた変更（見直し）等を考え、今後も引き続き検証していく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		出来る事は自分でしてもらうようにし、興味や楽しみを広げられるように取り組んでいる。また、買い物や外食体験など地域の資源を活用するようにしている。	ボランティアの受け入れがなく、地域との交流の機会が少ない。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		活動内容等をこどもの希望を取り入れ実施している。また外出やおやつを選択をこども達に聞くようにしている。	絵カード等を活用して自己選択の方法を分かりやすくしているが、まだ十分にこども達に浸透していない。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者の出席、長年経験を積み重ねた職員が出席するようにしている。	長年の経験を積み重ねた職員が少ない。人材育成が課題である。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		○	現在、医療的ケアが必要なこどもや重症心身障がいのあるこどもは利用していない。	現在、医療的ケアが必要なこどもや重症心身障がいのあるこどもは利用していない為、支援体制を整える機会がない。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校ホームページから学校便りを確認して情報確認を行っている。送迎時等は携帯電話を持参して適時連絡を取れるようにしている。	下校時間等は保護者からの連絡で対応している為、直接学校に問い合わせることはしていない。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○	学校側から問い合わせや希望などがあれば、引継ぎ票の作成を行うが、現在そのような要望がない。	学校側から問い合わせや聞かれることがほとんどなく、情報共有や相互理解をする場面がない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	事業所側から問い合わせや希望などがあれば、引継ぎ票の作成を行うが、現在そのような要望がない。	事業所側から問い合わせや聞かれることがほとんどなく、情報共有や相互理解をする場面がない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○	昨年度は、連携をとり研修を1回行った。	定期的な研修や事業所に直接来ていアドバイスや助言を受ける機会がまだ設定出来ていないので改善していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	地域の公園で地域のこどもと一緒に遊ぶことがある。	放課後児童クラブや児童館との交流がない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○	当事業所としては参加していないが、系列の事業所が参加して情報を共有している。	協議会等の方々とは直接会う事がないので関係性を築いたり深める機会がないのが課題である。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時や実施記録を通じて情報共有を行い、また必要に応じて電話やメールでの連絡を行っている。	送迎時に保護者とお会い出来ないケースもあるので、しっかりと情報共有出来るように積極的にアプローチを行っていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		ご家族同士がお話出来る場（交流の場）を開催、実施している。	平日のみで回数も少ない為、交流の場の参加者が少ないので参加者が増えるように工夫していく。また個別対応も検討していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		見学時や契約時の面談にて説明を行っている。変更点があった際は、変更点を記載した紙面を配布し説明を行っている。	説明時間の都合上、説明を簡略化する場合がある。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		懇談を行い、保護者の思いを聞き取り確認している。	こどもとは活動を通して思いを聞き取っているが、面談形式での話をする機会がない。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		懇談、個別支援計画の配布等を通して同意を得ている。	支援内容の丁寧な説明が十分ではない。時間をかけて説明する場の設定が必要である。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		電話や送迎時、実施記録を通じて、保護者からの相談を受ける事もあり、適時対応している。	定期的な相談の場として交流の場を開催しているが、回数も少なくまたお仕事の都合で来れない方もいるので改善が必要である。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		野外交流会や交流の場、定例会を開催して、その際にきょうだいの参加も出来るようにしている。保護者会等の設定が無い。	野外交流会や交流の場など保護者等が参加出来る機会を増やし、保護者やきょうだい同士が出会える機会を増やしていく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		懇談や送迎時に限らず、相談があれば電話、メール、直接等で柔軟に対応するようにしている。	事業所がこどもや保護者にとって話やすい相談しやすい所であるように職員一人ひとりが自己研鑽に努める。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		クラブ便りや花の会ニュース、LINE投稿による配信を行っている。	LINE登録が全員ではないので、登録しようと思ってもらえるような発信内容の充実を図っていく。広報誌の発行の間隔が長い。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		パソコン内のデータはセキュリティ対策を行い、共有クラウド活用して管理している。また持ち出し等も禁止している。	こども達のいる場での職員間の会話内容を十分に気を付けるように個々の意識を高めていく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		口頭だけでなく、コミュニケーションツール（絵カードや紙に書く等）を活用して視覚的にも伝えるようにしている。	こどもや保護者の立場になって考え、丁寧に分かりやすく伝えることを続けていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	外食体験やお買い物体験、お店の塗り絵イベント等に参加するなど近隣の方々との接点はあるが招待するなどはしていない。	事業所の行事に地域の方を招待することはないが、近隣の買い物にこども達と一緒にいくことはある。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを作成して保管している。また避難訓練も年数回実施している。	非常勤職員マニュアル認知度が低く。また保護者への認知、情報発信が改善出来ない。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		会議で職員に周知し、また訓練も実施している。	職員の理解、認識がまだ定着していないのが課題である。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		利用前の面談時に聞き取りを行い対応している。また様子の変化が見られた時には保護者へ報告を行っている。	全職員への情報の共有が十分でなく場合によっては知らない職員もいる為。情報の徹底を行っている。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	医師の指示書は受け取っていないが、事前に保護者にアレルギーの有無を聞き取り対応している。必要に応じて薬を預かっている。	除去や別メニュー等の対応を行いながら、他のこどもも遜色ない食事やおやつを提供するようにしていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		会議、研修などを実施している。	職員の経験を上げられるように継続して研修、訓練等を実施していく。また午後からの非常勤職員への同様の対応を行っている。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		警報・注意報発令時の対応を書面で配布している。また利用日のこどもに対しては電話連絡等を行い、随時情報をお伝えしている。	活動で起こり得たことは保護者へ正確な情報提供を行い周知していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット報告書を作成、会議で情報共有を行っている。	ひやりはっとの作成数が少ないのが課題であり、ひやりはっとの重要性を作成の簡素化を行い改善していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		毎年、事業所・法人単位、虐待防止の研修を行っている。	虐待防止は知識だけでなく、日々の関わり方が大切であることを伝え事業所全体での意識や雰囲気作りを大切にしていく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		支援計画書に記載している。また身体拘束マニュアルがある。	緊急時、一人の職員で対応するのではなく複数の職員で対応し安全確保を行うと共に発生時には必ず保護者への報告を行う。